

フージャースコーポレーションは、分譲マンション事業を本格的に再開する。郊外エリアを中心とした

フージャースコーポ

自社分譲を本格再開

新所沢では駅前176戸開発

理事業に注力する戦略を取っていた。今期に入り、事業環境に改善傾向が見受けられたため、千葉市中央区と東京都府中市で数年前に仕入れていた用地での新規開発を再開。更に、8月末からは同社の主戦場である埼玉でも再開する。廣岡哲也社長は、「税制や住宅ローン控除など住宅を取得するには追い風。また、金融機関の事業主に対する融資姿勢も緩和されており、環境は改善している」と話している。

8月末に埼玉で販売開始する物件は、「デュオヒルズ新所沢駅前」。西武新宿線新所沢駅徒歩1分の立地で、地上15階建て・総戸数176戸。専有面積70〜120㎡（ボリュームゾーンは80㎡台）のファミリータイプ。平均坪単価は160万円台後半を予定している。

そのほか、新規開発用と

して、埼玉真川口市（マンション64戸）、東京都荒川区（マンション39戸、戸建て6区画）、埼玉県八潮市（マンション32戸）の3カ所で用地を取得した。いずれも金融機関からの新規融資を活用したもの。最寄り駅からは徒歩4〜5分圏で、「バス便立地」というこれまでの同社の開発イメージを覆すものだ。「力のある駅でのバス便立地ではなく、駅力は多少落ちるがより駅に近い立地での開発」といった内容で、今後の用地仕入れを検討していくという。

なお、千葉市中央区で既に再開している分譲マンション「デュオヒルズ千葉椿森」は、総戸数54戸のうち8割以上の販売が進捗（ちよく）。東京都府中市の「デュオ府中駅前」（総戸数85戸）は、6月末の販売開始から約1カ月で第1期37戸が完売している。

マンション事業で成長してきた同社だが、不動産市況の悪化からここ数年は新規分譲をストップし、販売代